

メルキゼデクに等しい大祭司

へブライ人への手紙七章19節

こう証しされています。「あなたこそ永遠に／メルキゼデクに連なる祭司である。」(17)

罪のゆえに神に近づくことが出来ない人間を、神に近づかせる働きをするために立てられたのが祭司でした。旧約時代、祭司たちは神と人との間に立ち、動物の犠牲を献げることによって神の前に執り成しをしました。けれども、この旧約の祭司制度には限界があったと著者は語ります。アロンの子孫とは異なる、新しい祭司、完全な執り成しをする永遠の大祭司が必要であると。その新しい祭司こそキリストです。そのキリストの鏡として、創世記に登場するメルキゼデクが紹介されます。彼は王と祭司を兼ね、アロン系の祭司に勝る者、神に立てられた祭司とされています。キリストはメルキゼデクのように、旧約の祭司制にまさる真の大祭司であり、神に近づく唯一の道を開かれた方であると聖書は高らかに宣言します。真の大祭司キリストによって、私たちは神に近づくことができます。